

ゴルフと観光による 新たなマーケットの創造を目指して



高橋 尚子 (たかはし なおこ)

北海道ゴルフ観光協会代表幹事

札幌市生まれ。札幌大学女子短期大学部英文科卒、(株)ヤマイチエンタープライズ常務取締役。義兄はプロゴルファー高橋勝成。北海道観光振興機構女性アドバイザー、北海道ゴルフ観光協会代表幹事、日本ゴルフ観光協会設立準備室室長など。

世界と日本のゴルフ事情

英国の調査機関 Sports Marketing Surveys によれば、2005年の世界のゴルフ人口は6,400万人となっている。大陸別に見ると第1位がアメリカの3,780万人(59%)。次いでアジアの1,430万人(22%)、ヨーロッパの1,010万人(16%)、オセアニアの180万人(3%)である。ゴルフ場の数で見ると、世界全体で約3万カ所以上のゴルフ場がある。ゴルフ場の数もアメリカが第1位で約117,672コースである。驚くべきことに第二位は日本で2,400のゴルフ場がある。

なぜ、こうした驚くべき数になったのか。その要因の一つは、バブル期のゴルフ場開発の結果である。ゴルフを楽しむためのゴルフ場が会員権を中心とする投機目的に変わり、より良い投資物件を生み出すために新たなゴルフ場が増え続けたことは否めない。

さて、ゴルフ場は誰がコースでプレーできるかが欧米では厳格に決められている。大きく分けて二つと考えてよい。一つは、会員を中心とした、メンバーシップコース。もう一つは、一般の人が気軽に楽しめるパブリックコースである。

メンバーシップコースの代表格が、毎春アメリカで開催される世界最高峰のトーナメントであるマスターズチャンピオンシップの会場となるオーガスタナショナルゴルフコースである。1934年、球聖といわれたボビー・ジョーンズとゴルフ設計家アリスター・マッケンジーとによって同コースは作られた。このコースのメンバーは世界に300名しか存在しないといわれ、基本的にはビジターがラウンドできない厳格なメンバーシップコースとなっている。こうした欧米のような厳格なメンバーシップ制度が定着している日本のコースは少ない。

バブル経済の真ただ中では、プレーをするためのメンバーシップ制度よりも、投機を目的としたメンバーシップ制度が優先され、日本独自のゴルフ文化が進んだのである。その結果、バブル経済崩壊以降、投機目的で手にした会員権によるメンバーのプレーは激

減し、経営改善の一環としてメンバー・ビジターを問わず、入場者の確保が各地のゴルフ場の大命題となった。

北海道ゴルフ観光協会の発足

北海道には160を超えるゴルフ場が存在するが、北海道の人口、日本の人口ともに減少し、ゴルファーの数も減っていくはずである。こうした北海道のゴルフの厳しい状況を理解した上で、ヤマイチエンタープライズでは北海道のゴルフについて分析を行った。

その結果、北海道は、①ベント芝による欧米並みのコースコンディション、②湿気も少なく快適な天候、③18ホールスルー（休憩などを挟まないこと）でプレーできるなど、ゴルファーには魅力的な環境がそろっている。こうした魅力は当然ながら世界各国のゴルファーにも訴求できるはずである。

そこで、2010年4月、北海道に数多くあるゴルフ場を観光資源としてとらえ、ゴルフと観光を融合し、海外からも積極的にゴルファーを迎えるために、北海道ゴルフ観光協会を設立した。協会は、ゴルフ場、ホテル、翻訳、広告関係など幅広い分野の組織で構成されている。これは、海外ゴルファーが北海道でゴルフを楽しむ、おいしいものを食べ、異文化に触れる、こうした観光が持つ力を北海道経済の活性化につなげようとする試みなのである。

国際ゴルフツアーオペレーター協会への加盟

欧米ではこうしたゴルフと観光の融合による経済効果は既に注目され、イギリス人の旅行専門家でコンサルタントをしていたピーター・ウォルトン氏が14年前に世界ゴルフツアーオペレーター協会（IAGTO）を設立し、良いお手本となっている。同協会は、ゴルフツアーオペレーター、ホテル、航空会社、ゴルフ用品会社など約1,800に上る会員数を誇る一大組織である。

北海道ゴルフ観光協会は、2010年9月にIAGTOに加盟、同年11月にスペインで開催された国際ゴルフ観光見本市に観光庁と連携して出展、北海道のゴルフ場と観光を世界に広げる活動をスタートした。今回の見本市出展で、世界から見ると日本のゴルフ場はほとん

ど知られていないことが分かった。こうした事実は、こと観光ではむしろポジティブに考えたほうがよい。つまり、人が観光する目的の一つは、未知のものが持つ魅力。知られていないものこそ観光客の関心が増すということである。誰も行ったことのない北海道のゴルフ場だからこそ、海外の観光客にとって魅力があるはずである。

さて、2011年8月北海道運輸局の東日本大震災における風評被害対策事業の一つとして、IAGTOのピーター・ウォルトン会長を北海道に招くことができた。ウォルトン会長は北海道が初めてであり、われわれがこれから取り組む北海道のゴルフ観光が彼の眼にどのように映るのか、それを占う重要な場面が設定された。3泊4日という短い滞在であったが、ゴルフ観光にふさわしい旅程を組み、道内の観光地、ゴルフ場、開発の進むニセコ地区等を視察していただいた。ウォルトン会長からは「北海道はゴルフ観光地としてファーストクラスである」と最高の評価をもらい、今後の協会活動に自信を深めることができた。

北海道から日本へ

観光立国を目指すわが国では、観光庁を中心にさまざまな取組みがされている。その中の一つがスポーツツーリズムである。2016年、2020年のオリンピック種目にゴルフの採用が決まり、スポーツとしてのゴルフに注目が浴びる日も迫っている。日本の観光がスポーツツーリズムで発展する一助となるべく、ゴルフ観光協会の活動を北海道から日本へと広げる予定である。活動を広げ、日本各地の魅力とゴルフ場が結びつくことで、海外ゴルフ観光客にとって魅力的なコンテンツが集まり、少しでも地域が活性化することを期待してやまない。

※ 北海道ゴルフ観光協会HP <http://hgta.jp/ja/>